

屋久島生態系モニタリング

愛子岳東側斜面と 国割岳西側斜面における植生の比較 ～平成13年度調査

標高600m地点

各階層とも愛子岳東側斜面の植被率の方が高く、特に亜高木層はよく発達している。

両方ともサクラツツジ、タイミンタチバナの個体数が多いが、国割岳西側斜面では2種類とも低木層に非常に多く、愛子岳東側斜面では高木層、亜高木層にサクラツツジの多いのが目立つ。

高木層で比較すると、愛子岳東側斜面ではヒメシヤラ、アカガシ、アラカシ、タブノキが出現するのに対し、国割岳西側斜面ではコバンモチ、エゴノキ、ヤマモモ、ヤクタネゴヨウ、ヤマザクラが出現する。

低木層や林床層は、愛子岳東側斜面ではタイミンタチバナ、ハイノキ、ヤクシマアジサイ、イヌビワ、イヌガシ、シキミが多く、国割岳西側斜面では上記のサクラツツジ、タイミンタチバナを除けばクロバイ、ヒサカキ、バリバリノキ、イスノキ、イヌガシが多く出現する。

林野庁では、植生帯や林相の遷移を長期的に調査・観察し貴重な森林環境の保全に資することを目的に、屋久島森林帯の代表的な森林に永久植生プロットを設置しています。今回調査を行ったプロットはその一つで、見事な照葉樹林の広がる西部林道沿いの国有林内に九五に設けられた箇所です。また、今回のこの

調査は、独森林総合研究所の全面的な協力の下に行われました。大プロット面積は四ヘクタールで九六年に第一回目の調査が行われていました。今回は、樹種・胸高周囲長・立木位置・新たに侵入した個体等を調べましたが、長期に渡る照葉樹林の変化の貴重なデータとなるよう今後調査を継続することで樹木の更新メカニズムや森林の遷移等の説明が期待されます。

照葉樹林帯大プロット調査を実施

縄文杉の樹勢回復事業は樹木医による指導の下、平成九年度から十三年度にかけて、土壌が流されないよう階段状に柵を作る編柵工や広葉樹の炭化したチップを土壌に混ぜ込む土壌改良工などを実施してきました。十四年度には経過観察調査も行われ、縄文杉の根系が発達していることがわかり土壌改良工の効果が実証されました。しかし、近年編柵の老朽化や降雨による表層土壌

の流亡が進行し、その防止策と改良土の施工が必要となり、このため、今年度は土壌流出防止及び土壌改良を目的に編柵工(一三九m)、土壌改良工(八四m)を実施しました。

なお、今後も経過観察しながら表層土壌の安定、生成を目的に植栽工などを行い、縄文杉周辺を発見当時の環境に近づけるための努力をしていきたいと考えています。

三月二十三日、上屋久町環境文化村センターにおいて、平成十五年度第四回屋久島山岳部利用対策協議会が開催され、山岳部における協力金制度の導入、ゴールデンウイークの車両乗り入れ制度及び指導員配置計画についての二議題が話し合われました。

山岳部における協力金制度の導入については、前回の協議会でワーキンググループを設置し、検討した内容の中間報告がありました。利

用者への周知方法などまだまだ考慮する必要があるため、今後も更に討議しなければならぬことが話し合われました。

また、車両乗り入れ制度及び指導員配置計画については、四月中旬に開催予定の平成十六年度第一回山岳部利用対策協議会で決定することになりました。縄文杉

縄文杉を元の姿に！ 平成十五年度樹勢回復事業完了

平成十五年度世界遺産緊急対策事業の一つとして実施していた縄文杉樹勢回復及び植生回復措置工事が三月末に完成しました。

第四回山岳部 利用対策協議会

屋久島の植物



ヤクシマミヤスマスミレ
すみれ科

種子島、屋久島の固有変種でヒメミヤスマスミレの矮小種。標高約三〇〇～一七〇〇mの林内の歩道で、湿り気のある岩の上などに苔に混じって生育している。

高さ約四cmの小形のすみれで春から下弁に筋模様のある白い花を咲かせる。

保全センター 人の動き

☆四月一日付け転入
自然遺産保全調整官
元村正彦
(局・販売課)

☆四月一日付け転出
春野栄一(環境省出向)
山口 桜(屋久島署森林官)

☆四月一日付け
センター付け
橋本 侯夫

専門官(総合調整担当)
甲斐堅一(対馬C)

専門官(治山担当)
堀 利一(都城支署)

治山第一係長
村山敏彦(えびのC)

平成15年「洋上アルプス」掲載記事一覧

No.	大記事	小記事	お知らせ	屋久島生態系モニタリング	屋久島の植物	裏面
94	○地球温暖化の防止に向けての森林の役割	○ヤクスギランド天柱橋作設	○白谷雲水峡木製階段に滑り止めステップ	土砂流入による高層湿原への影響①	ヒメユズリハ (とうだいぐさ科)	○調査報告書リスト (4-3)
95	○屋久島における地域循環型社会の構築を考えるシンポジウム～木材利用のすすめ	○ヤクタネゴヨウ植栽箇所の測量を実施 ○ヤクスギランド・白谷雲水峡入場者数大幅増	○保全センター庁舎改修工事	土砂流入による高層湿原への影響②	ギョボク (ふうちょうそう科)	○調査報告書リスト (4-4)
96	○デンマーク林業大学生等48名が来島	○防風保安林に植樹 (安房集落防風林強化対策事業) ○山岳部利用対策協議会開催		湿原基礎調査 (花之江河・小花之江河) ①	アコウ (くわ科)	○愛子岳山頂に意味不明の掘り返し跡?
97	○山岳ガイド関係者と初会合	○木材を利用した治山ダム ○紀元杉前でシビルウェディング	○保全センター人の動き	湿原基礎調査 (花之江河・小花之江河) ②	ヒカゲツツジ (つつじ科)	○平成14年「洋上アルプス」掲載記事一覧
98	○庁舎改修工事完成	○山岳部利用対策協議会開催 ○JICA研修生受け入れ	○保全センター人の動き	愛子岳東側斜面の植生調査 ①概況	ヤクシマツリガネツツジ (つつじ科)	○屋久島森林環境保全センター平成15年度業務予定
99	○愛子岳登山道に植生分布表示板を設置	○屋久島国有林内への入林状況 ○縄文杉周辺パトロール実施		愛子岳東側斜面と国割岳西側斜面における植生の特徴	ヒメコナスビ (さくらそう科)	○GW期間中における縄文杉登山者数
100	○平成14年度ヤクタネゴヨウ増殖・復元緊急対策事業報告書まとまる	○屋久島世界遺産地域の管理の課題と対策の方向性を検討 ○「ヤクスギランドを美しくする会」総会 ○平成14年度協力金の公表について		愛子岳東側斜面の植生調査 ②目的	ヤクシマホツツジ (つつじ科)	○自然休養林の入場者数の推移
101	○「遊々の森」に調印島の歴史・産業・自然環境を学習	○白谷雲水峡危険木等除去 ○森林パトロールの勉強会実施 ○屋久島自然休養林保護管理協議会総会	○熱中症、無理なスケジュールに注意	愛子岳東側斜面の植生調査 ③標高200m地点	ヤクシマシオガマ (ごまのはぐさ科)	○平成14年度地点別雨量一覧
102	○世界遺産地域内の巡視を委託	○鹿児島大学生の企業体験研修を実施 ○宮之浦岳パトロール日誌 ○平成14年度生態系モニタリング調査報告書		愛子岳東側斜面の植生調査 ④標高400m地点	ヤクシマコウモリ (きく科)	○夏休み期間中の自然休養林の利用状況
103	○調査・研究の連絡会議を開催	○静岡農林大学の県外研修を受け入れ ○森林環境整備協力金について ○屋久島世界遺産地域連絡会議を開催		愛子岳東側斜面の植生調査 ⑤標高600m地点	オオキダチハマグルマ (きく科)	○縄文杉周辺の植生回復調査
104	○国有林で森林教室・林業体験を実施	○世界自然遺産登録10周年記念シンポジウム開催 ○第2回屋久島山岳部利用対策協議会開催		愛子岳東側斜面の植生調査 ⑥標高800m地点	モミジバキッコウハグマ (きく科)	○屋久島森林生態系保護地域などにおける学術調査等の入林状況
105	○ヤクタネゴヨウ採種・見本林とヤクスギ著名木展示林造成	○ヤクスギランド月間最多入場者数更新 ○国有林内で不法投棄	○平成14年度年報完成	愛子岳東側斜面の植生調査 ⑦標高1,000m地点	リュウキュウウアオキ (あかね科)	○洋上アルプス「屋久島の植物」掲載 (1～50号)

多数のご応募ありがとうございました

4月17日に予定しています著名屋久杉遺伝資源保存林植樹祭の募集は先日締め切りました。

当日参加者は島内約110名、島外50名、全員で約160名となる見込みです。

多数のご応募大変ありがとうございました。

今後も引き続き、植樹した著名屋久杉遺伝資源保存林の保育作業等を行いますのでご協力の程よろしくお願い致します。